

2021年度第2回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日時： 2022年2月11日（金）12：00～17：30（受付11：30～）

会場： AP品川（東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル8F）

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年より続くコロナ禍の中、昨年度の第2回、および今年度の第1回の全国研修会はそれぞれ、AP品川と京都市サーチパークにおいて、オンラインも併用する形で開催することができました。

そして、2021年度第2回の全国研修会につきましても、前2回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加の混合で、開催させていただきます。どうぞ奮ってご参集下さい。

全体会では、当学会前理事長でもある山王教育研究所前代表の弘中正美先生にご登壇頂きます。山王教育研究所は、小川捷之先生によって1970年に設立され、小川先生の没後、河合隼雄先生が代表をつとめられました。昨年は、研究所の設立50周年に当たり、それを記念して、河合先生の後を引き継がれた弘中先生を中心に、複数の研究所スタッフが執筆陣に加わる形で、『セラピストの主体性とコミットメント：心理臨床の基底部で動くもの』（創元社刊）が上梓されています。今回の講演では、弘中先生にこの著作に込められた精神について語っていただきます。

後半では、上記著作の執筆者の一人である西谷氏が事例発表を行う弘中先生の分科会、震災後10年を経た福島の現状と未来をテーマにした震災対策分科会を含め、6つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募下さい。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2021年12月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

<開催要領>

1. 定員：250名（オンサイト／オンライン）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場に来場いただく「オンサイト」参加と、ZOOMを使用して視聴していただく「オンライン」参加の選択可能な混合開催となります。なお、今後の感染状況等に応じて、開催方法など変更の可能性がありますことご了承ください。

2. 参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負うる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

3. 参加費：学会員：4,000円 非会員：7,000円 大学院生（非会員）：5,000円

4. 研修ポイント：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規程別項第2条（3）により、一般参加者は2ポイント、事例呈示者は4ポイント取得となります。

5. 研修内容：

(1) 全体会：12：00～14：00

テーマ：「セラピストの主体性とコミットメント」

講師：弘中 正美（山王教育研究所）

<概要>

理論や技法を超えて、心理臨床の基底部で動く治療的な現象の本質は何であろうか。クライアントとセラピストの生々しく、また生き生きとした絡み合いこそが、その正体であろう。そのためには、セラピストは何よりも自分自身が生きた存在でなければならない。セラピストは受容的なように見えて、実はそうとうに能動的にクライアントに関わっている。己の感性、好奇心、そして自由な精神を最大限生かして、己の責任と主体性を懸けてクライアントにコミットする存在であるのだ。

このようなセラピストの主体性とコミットメントの問題について、箱庭療法やプレイセラピーなどにおけるイメージの展開に注目しつつ論じてみたい。 ※国際箱庭療法学会ポイント対象（8. 研修ポイント欄参照）

(2) 分科会：14：30～17：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 弘中 正美（山王教育研究所）※注

『クライアントとセラピストの「対話（dialogue）」としての心理療法』

全体会で扱う「セラピストの主体性とコミットメント」のテーマを一つの事例に添って検討する。この事例のセラピストが語る次の言葉は、本事例の本質を表現し、また本分科会の目的を的確に示すものである。「心理療法の場においては、クライアントが語る主訴、そして表現する夢などのイメージを、セラピストがただ傾聴するのではなく、セラピスト自身が自らの主体性を持って傾聴し、互いに対話(dialogue)し議論(discussion)していくといった営み(opus)が行われる必要がある」。対話や議論は、イメージを媒介することによって、より先鋭化して、クライアントとセラピストが当事者として治療状況に没頭することを促す。

（事例提供者：西谷晋二氏）

※国際箱庭療法学会ポイント対象（8. 研修ポイント欄参照）

● 第2分科会 前川 美行（東洋英和女学院大学）

『いのちのイメージ表現』

心理療法の重要なキーワードに「死と再生」があるが、それは心理学的な意味だけではなく、実際にいのちの誕生や死がテーマになる心理療法もある。いのちに直接触れるテーマを持っておられるクライアントも多く、夢や箱庭、遊びなどにそのイメージが表れてくることは珍しくない。特にこの2年、多くの人の死が報じられるが、そこには数で表せないそれぞれの悲しみや思いの物語があるだろう。そこでいのちの表現としてのイメージについて、考えてみたい。

<事例募集> ※事例を募集します。

● 第3分科会 河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

『箱庭・夢における動物イメージ』

箱庭や夢には様々な動物が登場し、特に箱庭においては、ミニチュアの動物が用意されていることもあって、より多くの動物が置かれることが多いように思われる。心理療法における動物の意味と象徴性を考え、事例にそって検討したい。

<事例募集> ※動物の置かれる箱庭の事例を募集します。

● 第4分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『心理療法における「共感」について』

「共感」は心理療法の基本中の基本として重要なものである。

しかし、当然のことながら「感情を共有する」「相手の気持ちに寄り添う」「無条件で受け入れる」ということだけでケースが展開するようなことは、クライアントの健康度が高いとき以外は少なくなっているように思う。また心理療法に影響を与える「強い転移」「深い転移」があるように、「強いけれど浅い共感」や、「一見、浅く見えるが深い共感」も存在するのではないだろうか。

今回は、このようなさまざまな「共感」の在り方がどのように心理療法に影響するのかということを経過のなかで「共感」が困難なときを含め、クライアントをどう「理解」するのかという視点から考えていきたい。

（事例提供者：波多野玲奈氏）

● 第5分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『心理療法におけるイメージ表現の心理学的理解について』

心理療法において、夢や箱庭、描画等のイメージ表現をセラピストがどのように理解するかは、セラピーの展開それ自体にもかかわる重要な事柄である。ユングは「本当で、かつ重要なことは、心理学的理解であり、それは、病的な症状のベールの背後にあって、治療の過程においてのみ見出される」と述べたが、イメージの「心理学的理解」には、日常とは異なる心理学的なパースペクティブ（ものの見方）が求められる。この分科会では、提供された事例を通して、イメージ表現をいかにして心理学的に理解するかについて考えたい。

<事例募集> ※事例を募集します。

● 震災対策用分科会1 (S1) 岸 良範（福島学院大学）・渡部 純夫（東北福祉大学）

『東日本大震災から10年の流れと新たな動き』

震災から10年の時間が流れました。しかし、福島は今も震災が継続中です。その間様々な問題や課題が見えてきています。原発の廃炉は遅々として進まず、たまった汚染水や汚染土の処理も福島に問題を押し付ける形で進んでいます。水や大地が汚されていくことは、人々の無意識の世界が壊されていくことにつながっていくのではないのでしょうか。

10年一昔とはよく言ったもので、人々の記憶から、震災のことや原発のことが忘れ去られていっています。それは、福島の外だけではなく、内でも起こっていることです。だからこそ、どんな時代がこようとも長く伝え続けなければならないことと強く思っております。福島でも新たな動きが出ています。子供の心の成長に対処するため、念願の「子ども心のケアセンター」が設立され活動を開始しております。震災当時小学生だった子供たちが思春期・青年期をどのように生きていけばいいのか迷っています。親になった被災者並びにその子供たちの心にもいろいろな問題が生じています。発達障害の現状にも光を当てながらの活動が徐々に行われるようになってきています。

今回の分科会では浪江町の請戸小学校で被災し、語り部としても活躍し、現在東日本大震災・原子力災害伝承館でお仕事をしている横山和佳奈さんに小学生の時から10年間の流れについて話していただき、「子ども心のケアセンター」の立ち上げに尽力し福島県臨床心理士会の前会長で、福島大学大学院客員教授である、安部郁子先生から今の福島の子供の問題と課題について話していただくと考えております。

多くの皆さんの参加を期待しております。

（報告者：横山和佳奈氏、安部郁子氏）

6. 参加・発表申し込みについて

WEBによる参加・事例発表申込方法

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）および右記QRコードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお問い合わせ下さい。



【秘密保持に関する誓約書の提出について】

今年度より、参加者の皆様に事例発表内容に関して「秘密保持に関する誓約書」の提出をお願いすることになりました。誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますこと、ご了承くださいませようお願いいたします。

誓約書の提出方法は、参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動しますので、内容をご確認いただいで必要事項にご記入ください。参加申込時に提出できなかった場合は、右記の「QRコード」の入力フォームにご記入いただき提出をお願いいたします。



【事例発表申込】

上記と同様の申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある<事例概要記入シート>にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※<事例概要記入シート>は、当会ホームページからもダウンロードいただけます。

※ **事例発表申込締切：2022年1月12日（水）【必着】**

※ **参加申込締切：2022年1月26日（水）【必着】**

- ・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

7. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

<郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

振込先： 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

<他金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店（ぜろきゅうきゆう店）

口座番号：0233788

- ・振込される際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ハコワタロウ）
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2021年度第2回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ハコワタロウ）
- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。

※ 参加費振込締切：2022年1月28日（金）

8. 研修ポイントについて

全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。参加証が研修証明書の代わりになりますので、オンライン参加される方で参加証をご希望の方は申込時に「参加証の発行について」の項目で【希望する】にチェックを入れてください。

※国際箱庭療法学会ポイント対象について※

全体会、第1分科会に参加された方はISST（国際箱庭療法学会）正会員になるために必要な「理論的トレーニング100時間」のうちの参加時間数として認定されます。ご希望の方は研修終了時に参加証明書をお申し込み下さい。

ISST（国際箱庭療法学会）は世界の箱庭療法家が集い、学び合う場になっています。日本の箱庭療法への期待と関心も高まっています。

9. 参加証について

オンラインで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。

オンラインで参加されて参加証をご希望の方には、研修会終了後、参加されたことを確認のうえお送りいたします。

10. 会場案内

<東海道新幹線・JR 各線・京浜急行線をご利用の場合>

「品川駅」港南口より徒歩6分

※アクセスの詳細については、AP品川のホームページをご参照ください。

(<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/>)

11. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修会担当

住所：〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6 新元社内

E-mail : training_jast@sandplay.jp

